2026(令和８)年度 全国学力・学習状況調査

逗子市の結果について

（１）調査の目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る

○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

○以上のような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する



（２）調査実施児童・生徒数

逗子市立小学校第６学年児童　412名

逗子市立中学校第３学年生徒　307名

（３）調査の内容

①教科に関する調査（小学校：国語、算数　中学校：国語、数学、英語）

出題内容はそれぞれ次の（１）と（２）を一体的に問う。

（１）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能　等

（２）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力　等

②質問調査

○調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○本年度の主な調査項目は以下のとおり。

・学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況
・ICTを活用した学習状況
・教科に関する意識や学習活動の状況
・授業外（学校外）での学習や生活の状況
・児童生徒の挑戦心や好奇心、ウェルビーイング等に関する状況等

（４）調査の方式　　悉皆調査

中学校英語、質問調査はCBT調査（Computer Based Testing）

（５）調査日

○教科に関する調査（国語、算数・数学）

2026年（令和８年）４月23日（木）

○教科に関する調査（中学校英語「話すこと」以外）、生徒質問調査

2026年（令和８年）４月20日（月）～23日（木）のうち１日（学校ごとに指定）

○児童質問調査

2026年（令和８年）４月24日（金）～５月８日（金）のうち１日（学校ごとに指定）

○教科に関する調査（中学校英語「話すこと」）

当日実施校　　2026年（令和８年）４月24日（金）

期間内実施校　2026年（令和８年）４月28日（火）～５月29日（金）

（６）調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

①実施教科が「国語」「算数・数学」中学校「英語」であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。

②クロス集計については、相関関係が見られるかを分析したものであり、因果関係を示したものではないことや、質問調査の回答が特定の選択肢に偏っている項目の場合は正答率との相関関係が表れにくいこと。

（７）調査結果(正答率)

(小学校)

教　科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国　語	60%	61%	60.9%
算　数	61%	58%	56.4%

(中学校)

教　科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国　語	67%	65%	63.9%
数　学	57%	59%	57.0%

教　科	逗子市 平均IRTスコア	神奈川県 平均IRTスコア	全国 平均IRTスコア
英　語※	534	524	499

※中学校英語はCBT調査（Computer Based Testing）により実施。その結果はIRTスコアとして示される。

※IRT：児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。
項目反応理論（Item Response Theory）

※IRT スコアとは、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。各教科に CBT・IRT を導入する年の全国平均 500 を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋５ポイント 程度良かった点や特徴ある点等　●全国平均－５ポイント程度課題や改善点等）

結果の概要	全体の正答率は60%と、全国の平均正答率よりやや低い結果となった。 領域ごとの正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均正答率より5.1ポイントを下回る傾向が見られたが、「情報の扱い方に関する事項」に関しては0.7ポイントを上回る傾向が見られた。 問題形式では、選択式は全国平均を1.1ポイント上回ったが短答式では8.6ポイント下回る傾向があった。記述式に関しては、昨年度は全国平均を多少上回る結果となったが、今年度は4.5ポイント下回る結果となった。
言葉の特徴や使い方に関する事項	○該当なし ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題、「みじかい（短い）」の書き取りでは、全国正答率を8.6ポイント【２三ア】、「ふしぎ（不思議）」の書き取りでは、全国正答率を8.5ポイント下回っている。【２三イ】
情報の扱い方に関する事項	○該当なし ●該当なし
我が国の言語文化に関する事項	該当する出題なし
話すこと・聞くこと	○該当なし ●該当なし
書くこと	○該当なし ●該当なし
読むこと	○目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題では、全国正答率を4.7ポイント上回っている【３三（１）】 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、全国正答率を7.7ポイント下回っている。【３三（２）】
児童質問紙 国語に関連する質問 問52～59	●国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（－5.7ポイント）【55】 ●5年生までにうけた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになにかを教えてくれましたか（－8.6ポイント）【57】

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(小学校国語)

概要

全体的に、平均正答率をみると、授業の中で様々な指導内容を取り入れていることが伺える。

特に、「話すこと・聞くこと」の平均正答率は全国正答率よりも高いポイントとなっている。児童質問の「（38）5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」の項目は、33.0と全国平均を7.2ポイント上まっていることから、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実が図られていることが見受けられる。引き続き、相手や目的、意図や効果を踏まえた学習指導の充実を図る中で、資料の活用による効果を予想しながら考えられるように指導すると、目的や相手、状況などを踏まえて、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方などに注意するよう指導する必要がある。

「書くこと」については、「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる」の問題について、平均正答率は全国正答率よりも高いポイントになっている一方で、「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」の問題の平均正答率は全校久正答率よりも低いポイントになっている。まずは、引用する目的を書き手である児童と教師が共有しすることが重要である。自分の考えが伝わるように、引用して書いている文章と引用して書いていない文章を見比べたり、「どちらの方が説得力があるか。」など、児童とともに振り返る機会を設け、学級全体で引用する目的や引用するときに大事なことについてまとめ児童が適宜振り返ることができるように手立てを講じることが大切である。

読むことについては、昨年度、一昨年度共に３つの問題すべて全国正答率よりも高いポイントとなっていたのに比べ、今年度は「目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題の平均正答率は全国正答率よりも4.7高いポイントだったが、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題は平均正答率は全国正答率よりも7.7ポイント低くなった。児童によっては、文章の内容の中心や筆者の考えの中心ではない事例を取り上げ、自信の経験を結び付けてまとめている場合も考えられる。筆者がどのような感想や意見などをもっているのかなどに着目するような指導が必要である。

児童質問用紙より、「（44）国語の勉強は得意ですか」のポイントと「（45）国語の勉強は好きですか」のポイントの差が昨年度は7.7だったのに対し、今年度は3.4と差が縮まった。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」のポイントは全国平均より2.9ポイント上回っている。このことから、国語の授業について内容は理解し得意としながら、それに並行して少しずつ国語を好きだと感じられるようになってきている傾向にあると言える。学ぶ意欲と共に学ぶ楽しさと感じられる様、引き続き授業計画や指導計画を学級のみによらず学年全体、そして学校のカリキュラムマネジメントの適切な実現に取り組む必要がある。

引き続き、個別最適な学びと協働的な学びの双方が充実し、「なんとなくわかった」という曖昧な理解のまま学年を進めてしまうような児童の声を聞いたり、実態を把握したりすることで、より授業内容が充実してくる。誰一人取り残さない学校を目指し、児童一人ひとりが「学ぶ意欲」をもって楽しく学習に参加できるよう市としてさらに授業改善に取り組んでいく。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

漢字を書くことについては、「漢字を使用することの意義や自筆で書くことの意味」を児童に意識づけられるようにし、形式的に考えるのではなく、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要である。相手の読みやすさや意味の通りやすさを考えて漢字を正しく書くことも求められる。第５学年及び第６学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くよう授業の中だけでなく、日常的な学級経営の中でも、教師が意図的に漢字の必要性を意味づけることが大切である。

【話すこと・聞くこと】

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、これまでの学習を想起させ身に付けたい力を明確しに、学習の見通しをもてるようにすることが大切である。国語の時間とで学習することを整理し関連をはかりながら、ゴールに向かうまでにどのような活動や学習を積み重ねるとよいかを学級で共有する。構成メモを考える際にはグループで話し合い、自分たちが伝えたいことは何かについて常に振り返りまとめていけるようにするとよい。さらに、話の中心と事例などがあっているかを確かめらえるようにすることが重要である。また、他のグループの発表を聞く際には、相手に伝わるためにどのような「表現の技法」を取り入れているのか、どのような人を意識してその表現を用いたのかなど、相手や目的を意識し、効果的に資料を活用しているか確かめられるようにすることが大切である。それぞれのグループでのよさを整理・分類し、それらの情報を自分の表現に取り入れながらまとめていくことが大切である。授業の中では話し合い活動等において、話し手と聞き手の両方の立場からアドバイスをし合いながら再構成したり、高めあっていったりできるような場づくりが必要となってくる。

【書くこと】

自分の考えが伝わるように書くためには、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えたり、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが大切である。文章全体の筋道を整えるためにどのようなつながりや配列があり、それぞれどのような効果があるのかを、教師が整理しておくことが大切である。書き手である児童が「読み手にどのように読み進めていってほしいか」という目的を明確にし、児童自身が目的におうじて、ふさわしいつながりや配列を考えて書き表すことができるようにすることが重要である。つながりや配列を意識することが困難な児童や、どのようなつながりや配列でか買えば目的に応じた文章になるのかが明確でない児童に対しては、これまで扱ってきた説明的な文章を想起し、どのような論の進め方があり、それらがどのような効果をもたらしていたかを整理する場面を設定することなどが考えられる。また、論の進め方が異なる複数の文章を読み比べ、それぞれの効果について整理することなども考えられる。目的を意識しながら、効果的な表現の仕方を比較しながら、自分なりに読み手を意識したまた筋道の通った文章となるように様々な観点から、教師が個別に声をかけることで児童が意識して学びに向かえるようにするとよい。

【読むこと】

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめるためには、文章を読んで、理解したことを整理したり、理解したことの中から既有の知識や経験などに結びつくものを考えたりしながら自分の考えをまとめるようにすることが大切である。児童の考えの家庭は構造と内容を把握し、精査・解釈をし、考えを形成するという一定の順序で進む場合と、考えを形成しながら、構造と内容を把握したり、精査・解釈をしたりするなど、往還する場合が考えられます。そのため、児童の学習過程を計画する際には一人一人に合った学習過程になるように柔軟に設定していくことが大切である。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学校算数）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋５ポイント 程度良かった点や特徴ある点等　●全国平均－５ポイント程度課題や改善点等）

結果の概要	本市の平均正答率は 61%であり、全国、神奈川県の平均正答率を上回る結果であった。学習指導要領の領域全てにおいても、全国の平均正答率を上回っていた。その為、下記の領域ごとの分析については、ほとんどの領域で「○全国平均＋５ポイント 程度良かった点や特徴ある点」が見られた。 評価の観点においても、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国、神奈川の平均正答率を上回る結果であったが、知識・技能に比べ、思考・判断・表現は、全国、神奈川と同じく平均正答率が下がる傾向が見られる。また、問題形式ごとに見ると、全ての形式において正答率が全国、神奈川県の平均を上回っていた。 一方で、無回答率については、すべての問題で全国、神奈川を上回る結果となっていた。
（算数） 数と計算	逗子市：65.6%　全国平均：61.1%　　全国平均より 4.5 ポイント高い。 ○日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる（＋12.1 ポイント）【１（４）】 ○単位分数の個数に着目し、数直線上の１を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる（＋6.9 ポイント）【３（４）】 ●該当なし
（算数） 図　　形	逗子市：63.6%　全国平均：55.3%　　全国平均より 8.3 ポイント高い。 ○直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる（＋9.8 ポイント）【１（２）】 ○体積の意味について理解しているかどうかをみる（＋14.4 ポイント）【１（３）】 ●該当なし
（算数） 測　　定	逗子市：79.4%　全国平均：78.1%　　全国平均より 1.3 ポイント高い。 ○該当なし ●該当なし
（算数） 変化と関係	逗子市：49.8%　全国平均：41.1%　　全国平均より 8.7 ポイント高い。 ○百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる（＋12.2 ポイント）【２（２）】 ○単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる（5.2 ポイント）【２（３）】 ●該当なし
（算数） データの活用	逗子市：52.3%　全国平均：48.6%　　全国平均より 3.7 ポイント。 ○該当なし ●該当なし

児童質問紙 算数に関する質問 問 60～67 （算１・２）	逗子市：65.8%　全国平均：67.8%　　全国平均より 2 ポイント低い。 ○「算数の勉強は好きですか」（＋5.8 ポイント）【61】 ○「算数の授業の内容はよく分かりますか」（＋7.0 ポイント）【62】 ●「算数の授業の内容はよく分かりますか」（-5.5 ポイント）【算１】 ●「解答時間は十分でしたか（算数）」（-6.1 ポイント）【算２】

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(小学校算数)

○調査の概要について

令和8年度の逗子市の平均正答率は61%で、全国 56.4%を4.6ポイント上回った。平均正答数は9.8問、中央値は10問、標準偏差は4.0であり、いずれも全国と同水準である。全体として、逗子市の学力層の分布は全国平均と大きくは変わらないが、内容や形式によって差が見られる。また、無解答率については、問題形式によらず、すべての問題で全国の無解答率を上回っている。

○評価の観点別比較

評価の観点	逗子市	全国	差
知識・技能	64.8%	60.1%	+4.7
思考・判断・表現	50.6%	45.4%	+5.2

特に、思考・判断・表現が全国を 5.2ポイント上回っており、単なる計算技能だけでなく、考え方を説明したり、資料を基に判断したりする力にも一定の成果が見られる。一方で、思考・判断・表現の正答率自体は50.6% にとどまっており、全国より高いとはいえ、十分に定着しているとは言い切れない。今後は、既習事項を活用して筋道立てて説明する力や、複数の情報を関連付けて判断する力をさらに高める必要がある。

○問題形式別比較

問題形式	逗子市	全国	差
選択式	60.0%	56.0%	+4.0
短答式	64.9%	59.7%	+5.2
記述式	53.7%	48.5%	+5.2

特に短答式と記述式はともに全国を 5.2ポイント 上回っており、必要な情報を整理して答えを求めたり、自分の考えを表現したりする力に強みが見られる。一方で、記述式は53.7% であり、他の形式と比べると依然として低い。つまり、全国との比較では良好であるが、逗子市の中で見ると、記述による説明や理由の表現にはなお課題が残る。

○正答数の分布について

層	逗子市	全国	差
0～5問	17.2%	21.6%	-4.4

6～8問	18.5%	22.2%	-3.7
9～11問	24.3%	25.0%	-0.7
12～16問	40.1%	31.1%	+9.0

12～16問の上位層が40.1% と、全国の 31.1% を大きく上回っており、比較的高い正答数を獲得している児童が多い。一方で、0～5問の層も17.2% 存在しており、一定数の児童が基礎的な内容でつまずいていることもうかがえる。

○指導改善の方向

逗子市では全体として良好な結果が見られるが、今後の指導改善に向けては次の点が重要である。

・記述式問題への継続的な対応

答えだけでなく、根拠や考え方を言葉・式・図で説明する活動を日常的に取り入れる。

・思考・判断・表現の質の向上

比較、分類、根拠付け、条件整理など、考える過程を明確にする授業づくりを進める。

・基礎・基本の定着に課題のある層への手当て

0～5問、6～8問層の児童に対して、学年に応じた補充的な指導や個別最適な支援を充実させる。

【数と計算】

年度	逗子市
令和5年度	70.7%
令和6年度	65.8%
令和7年度	66.9%
令和8年度	65.6%

４年間を通して比較的高い水準を維持しており、逗子市の強みの一つといえる。単純な計算技能だけでなく、数量の関係を式に表すこと、分数や小数の意味を理解して判断すること、単位や数の見方を基に説明することに課題が見られる。特に、既習の計算方法を理解していても、場面に応じて適切な式に表すことや、根拠を示して説明することになると正答率が下がる傾向がある。

今後の指導改善に向けて

・計算の正確さだけでなく、なぜその式になるのかを説明する学習を重視する。

・分数・小数・割合について、数直線や図、具体物を用いて意味理解を伴う指導を充実させる。

・文章題では、数量の関係を『図 → 式 → 言葉』のように複数の表現で捉え直す活動を取り入れる。

・1つの立式だけで終わらせず、別の考え方や別の表し方を比較する授業を進める。

【図形】

年度	逗子市
令和5年度	54.5%
令和6年度	65.1%
令和7年度	58.9%
令和8年度	63.6%

年度による変動が比較的大きく、安定して高いとは言いにくい領域である。図形の名称や基本的な性質を理解する問題では比較的対応できる一方、図形の性質を使って説明すること、面積の求め方を考えること、作図や構成の意味を捉えることに課題が見られる。
特に、図形を見てすぐ答える問題よりも、条件を整理し、図形の構成要素に着目して考える問題で差が出やすい。

今後の指導改善に向けて

・図形の学習において、定義や性質を「覚える」だけでなく、それを使って説明する活動を増やす。

・方眼、作図、切る・折る・分けるなどの具体的活動を通して、図形の構成や性質を実感的に理解する学習を重視する。

・面積や体積では、公式の適用にとどまらず、どう分けると求めやすいかを考える活動を系統的に行う。

【測定】

年度	逗子市
令和5年度	
令和6年度	
令和7年度	56.9%
令和8年度	79.4%

【変化と関係】

年度	逗子市
令和５年度	74.4%
令和６年度	55.4%
令和７年度	63.0%
令和５年度	49.8%

変化と関係の領域では、伴って変わる二つの数量の関係を捉えること、比例的に見られるかどうかを判断すること、必要な数量を見いだして式や言葉で説明することに課題が表れやすい。

今後の指導改善に向けて

・表、式、グラフを相互に関連付けて、数量の変わり方を多面的に捉える学習を充実させる。

・「何が変わり、何が変わらないか」「どの数量に着目すると関係が見えるか」を問う発問を工夫する。

・日常場面の問題を用い、関係を見つける → 式に表す → 結果を解釈する流れを繰り返し経験させる。

【データの活用】

年度	逗子市
令和5年度	68.6%
令和6年度	61.3%
令和7年度	63.3%
令和8年度	52.3%

令和５年度よりは低下しており、やや伸び悩みが見られる。
表やグラフから必要な情報を読み取ることには一定の強みがある一方で、複数の資料を関連付けて考えること、条件に合うデータを選び出すこと、根拠を明確にして説明することに課題が見られる。資料を見比べながら判断する問題や、読み取った内容を言葉と数を使って表現する問題で無回答が高くなる傾向がある。

今後の指導改善に向けて

・1つの資料だけでなく、複数の資料を比較して共通点・相違点を見付ける学習を取り入れる。

・授業の中で、『読み取る → 比べる → 判断する → 根拠を述べる』という流れを明確にした指導を行う。

・学級で集めた身近なデータを扱い、自分たちで整理・分析・発表する学習を通して、データを活用する実感を高める。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果分析（小学校児童質問調査）

逗子市教育委員会

○特徴的なことや課題と考えられること等　　●課題と考えられること等

○「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」の質問に「そう思う」と回答していた児童の割合は、全国・神奈川県の割合より８～10ポイント程度高い。

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の質問に「３時間以上」と回答した児童の割合が全国・神奈川県より高い一方、●「30分より少ない」と回答した児童の割合は７～８ポイントほど高い。

○「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問と各教科の正答率をクロス集計した結果、「できている」と回答した児童は「できていない」と回答した児童に比べ、国語19.5ポイント、算数20.5ポイント高い。

●「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童の割合が40.8%で、全国より８ポイント程度低い。

●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した児童の割合が73.1%で、全国・神奈川県の割合より低い。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

○日頃から一人一台端末の使用が当たり前になってきた。この端末に入っているAIドリルを今回見えた課題の解決につなげていく。授業の中で問題の解説や個別の支援を丁寧に行いつつ、補充問題としてAIドリルを有効に活用し、個別のつまずきに応じた問題で学習の定着を図る。また、端末を持ち帰ることで、自身の弱点を克服するような問題を家庭学習として取り組むことができる。

○自身で学び方を考え工夫できる児童ほど、学習の成果につながるという結果が得られた。今後も「どのように学ぶか」を意識し、児童が自身の学習を振り返ったり、目標に向かって試行錯誤を繰り返したりするなど、単元や活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図る。

○学校は、個性の異なる一人ひとりが集まり、ともに生きる場であるからこそ、それぞれの感じ方・考え方の違いがあることを知ることができる。様々な違いを知ることは自分の考えを広げ、深めることにつながる。さらには、そのような集団の最適解をみんなで工夫しながら探る過程は、より豊かな社会の形成者としての生きる力を育む大切な学びとなる。様々な違いを認め合い、話し合い、ともに支え合うような親和的な学級づくり・学校づくりをこれからも推進し、「いじめはどんな理由があっても許されない」という認識の徹底を図る。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋５ポイント 程度良かった点や特徴ある点等　●全国平均－５ポイント程度課題や改善点等）

結果の概要	全体の正答率は67%と、全国の平均正答率を上回る結果となった。 領域ごとの正答率では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する平均正答率が全国を4.8ポイント、「情報の扱い方に関する事項」に関する平均正答率が全国を5.2ポイント上回った。 問題形式では、昨年度短答式については全国平均より3.1ポイント下回る結果となったが、今年度は選択式、短答式、記述式いずれも全国平均より上回った。 なお、過去３年間の同調査結果においては、本市の平均正答率は全国、神奈川県の平均正答率を上回っている。さらに、今年度は学習指導要領の内容や、評価の観点、問題形式全ての項目において、全国平均より上回る結果となった。
言葉の特徴や使い方に関する事項	○助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる問題では全国平均正答率を5.9ポイント上回っている。【１一】 ○文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかを」みる問題では、全国平均正答率を8.4ポイント上回っている。【３一】 ●該当なし
情報の扱い方に関する事項	○情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる【２三】 ●該当なし
我が国の言語文化に関する事項	該当する出題なし
話すこと 聞くこと	○目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では、全国平均を6.7ポイント上回っている。【２一】 ●該当なし
書くこと	○該当なし ●該当なし ※表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる問題では、全国平均を1.7ポイント下回っている。【３二】
読むこと	○目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる問題では、全国平均を5.2ポイント上回っている。【４三】 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題では、全国平均を5.1ポイント上回っている。（４四） ●該当なし
生徒質問紙 国語に関連する質問 問 52～59	○国語の勉強は特異ですか。(+5.1ポイント)【52】 ○国語の勉強は好きですか。(＋8.2ポイント)【53】 ○国語の授業の内容はよく分かりますか（+8.7ポイント)【54】 ○1，2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生はあなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこか伝えてくれましたか。(+15.3ポ

	イント）【56】 ●1，2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか。（-5.8ポイント）【58】

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと（中学校国語）

概要

全体的に、全国平均を上回る傾向が続いていて、授業の中で様々な指導内容を取り入れていることが伺える。特に質問事項の「1，2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生はあなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこか伝えてくれましたか」にたいして、全国平均を15.3ポイントも上回る結果となった。教師が一人一人の評価を正確にかつ丁寧に行い、課題だけではなく「良さ」や「成果」を伝えたことによって、個人の目標が明確になり学力向上につながったといえる。今後も継続的に行っていきたい取組である。しかしながら、「1，2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか。」については、全国平均を5.8ポイント下回る結果となった。このことについてみる問題の正答率は全国正答率より、2.2ポイント高い正答率ではあったが、実際の授業の中でも互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、考えをまとめる機会を国語科だけでなく、他教科にわたりまた、日常生活の中でも横断的に取り入れていく事を大切にしていきたい。

今回の調査においては、主体的・対話的で深い学びを実現した学習指導を行い、学習を通してどのような資質・能力を身に付けるのか生徒自身が意識できるようにすることが大切である。すでに効果が表れている、「生徒一人一人の学習の状況を把握し、適切なフィードバックを行う」ことは継続しながら、ＩＣＴを活用するなどして主体的に学習に取り組むようにしたり、生徒が考える場面と教師が教える場面を適切に組み立て学びのきまりをつくりだすことが必要である。個別最適な学びと協働的な学びの双方の充実には、指導計画に基づいた学習指導の改善が必要であり、一人ひとりの学習理解度を把握し、適切なフィードバックや声掛けをすることで、学びの質を高めることが必要になってくる。昨年度同様に誰一人取り残さない学校を目指し、この見取りをより充実させ、「わからない」ままでいる生徒には適切な指導が積み重ねられるよう市として取り組んでいく。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

各学年の語彙の指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるよう指導することが大切である。１人１台端末を活用して文章を作成する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択することができるよう、指導することがこれまで以上に重要になってくる。手書きで漢字を書くことを通して、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目し、字形を正しく捉えたり読みを類推したり、大まかな意味を捉えたりすることが効果的になってくる。

【話すこと、聞くこと】

「Ａ話すこと・聞くこと」の学習においては、「話題の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討、考えの形成（話すこと）」、「表現、共有（話すこと）」、「構造と内容の把握、精査・ 解釈、考えの形

成、共有（聞くこと）」、「話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。２（一）の正答率が全国的にも低くなっており、今後の指導の一つとして、自分本位ではなく、読み手の立場に立って文章を整える力をつける必要がある。

【書くこと】

「Ｂ書くこと」の学習においては、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことが課題である。書き手が目的と意図に応じてどのような表現の工夫をし、それらはどのような効果があったかなどについて検討することが考えられる。また、どのように改善するとよいかなど、次の自分の書く活動へ生かす具体的な視点を得ることも重要である。また、表現の工夫としては、説明や具体例、事物の描写の仕方、表現の技法、文末表現や敬語などの語句の用法などに着目することが考えられるが、着目した表現について、どのようあな理由で効果的なのか、どのように書けばより効果があるのかなどを具体的に考えることが重要である。表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる問題は、今年度唯一全国平均を 1.7 ポイント下回っており、今後の指導の一つとして表現の工夫と効果について意識しながら、書く活動を意図的計画的に取り入れていく必要がある。

【読むこと】

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題がある。具体的な場面を思い浮かべ、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことと結び付けるなどして、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることなどが考えられる。文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるように把握したり解釈したりしたかを十分に踏まえ、それを常に確かめながら考えを形成していくことが大切である。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校数学）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均+５ポイント程度の良かった点や特徴ある点等　●全国平均−５ポイント程度の課題や改善点等）

結果の概要	本市の平均正答率は57%であり、全国の平均正答率とほぼ同じ結果であった。学習指導要領の４領域において、【A　数と式】【B　図形】は全国、神奈川県の平均正答率を下回り、【C　関数】、【D　データの活用】は全国、神奈川県の平均正答率を上回る結果であった。 評価の観点においては、知識・技能、思考・判断・表現ともに全国の平均正答率とほぼ同じ出会ったが、神奈川県の平均正答率より下回る結果となった。 問題形式毎に見ると、全ての形式において平均正答率が全国とほぼ同じであった。しかし、すべての形式において神奈川県の平均正答率を下回っている。
(数学) 数と式	逗子市：65.8%　全国平均：67.8%　　全国平均より２ポイント低い。 ○該当なし。 ●同類項の意味を理解しているかどうかをみる。(−6.5ポイント)【２】
(数学) 図　　形	逗子市：47.8%　全国平均：48.7%　全国平均より0.9ポイント低い。 ○該当なし。 ●２直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる。(−4.6ポイント)【３】
(数学) 関　　数	逗子市：56.8%　全国平均：54.8%　　全国平均より２ポイント高い。 ○数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。(+4.7ポイント)【７（２)】 ●該当なし。
(数学) データの活用	逗子市：55.8%　全国平均：53.5%　　全国平均より2.3ポイント高い。 ○起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる。(+4.7ポイント)【５】 ○累積度数の意味を理解しているかどうかをみる。(+4.3ポイント)【９（１)】 ●該当なし。
生徒質問紙 数学に関する質問 問60〜67 数（１・２）	肯定的な回答を比較した。 ○数学の勉強は得意ですか。(+3.4ポイント)【60】 ○数学の勉強は好きですか。(+8.2ポイント)【61】 ●数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（−8.5ポイント)【63】 ●１、２年生のときに受けた授業では、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか。(−6.0ポイント)【64】 ●１、２年生のときに受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか（−7.6ポイント)【66】

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(中学校数学)

○調査の概要について

和8年度の逗子市の数学の平均正答率は57.0%で、全国（公立）と同程度であった。平均正答数は9.1問、中央値は10問、標準偏差は4.5であり、いずれも全国（公立）と同水準である。全体として、逗子市の学力層の分布は全国平均と大きくは変わらないが、内容や形式によって差が見られる。また、無解答率については、問題【７（２)】を除いた、すべての問題で全国の無解答率を上回っている。

○評価の観点別比較

項目	逗子市	全国（公立）	差
知識・技能	62.7%	63.0%	-0.3
思考・判断・表現	40.3%	39.1%	+1.2

知識・技能は全国並みであり、基礎的・基本的な内容の定着はおおむね図られている。思考・判断・表現は全国をやや上回っており、条件を整理しながら考えたり、数学的に説明したりする力に一定の成果が見られる。

一方で、両観点とも際立って高い状況ではなく、基礎の確実な定着と、考えを表現する力の両面をバランスよく伸ばしていく必要がある。

○問題形式別比較

項目	逗子市	全国（公立）	差
選択式	57.9%	59.3%	-1.4
短答式	64.4%	64.2%	+0.2
記述式	40.3%	39.1%	+1.2

短答式は全国並みであり、基礎的な内容を簡潔に答える力はおおむね身に付いている。記述式は全国をやや上回っており、自分の考えを言葉や数学的な表現で示す力には一定の強みが見られる。一方で、選択式は全国をやや下回っている。選択肢の中から適切なものを選ぶ際に、条件を正確に読み取ることや、複数の情報を比較して判断することに課題があると考えられる。

○正答数の分布について（%）

層	逗子市	全国（公立）	差
0-4問	20.5%	19.4%	+1.1
5-9問	26.3%	30.3%	-4.0
10-12問	23.7%	21.0%	+2.7
13-16問	29.5%	29.1%	+0.4

上位層に当たる13-16問層は全国並みであり、一定数の生徒が基礎から活用まで対応できている。10-12問層は全国を上回っており、中位上位層は比較的厚い。一方で、0-4問層が全国をやや上回っていることから、基礎的事項の定着に課題を抱える生徒への支援が必要である。5-9問層が全国を下回っているが、中位層の一部が上位層へ伸び切れていない、あるいは下位層への移行を防ぎ切れていない可能性がある。

○指導改善の方向

基礎的・基本的な内容の定着が不十分な生徒に対して、小単元ごとのつまずきを把握し、補充的な指導を早期に行うことが重要である。また、中位層の生徒に対しては、単なる反復にとどまらず、「なぜそうなるのか」を説明する活動や、複数の考え方を比較する学習を充実させ、上位層への伸長を図る必要がある。
記述式で見られた強みを生かし、授業の中で自分の考えを表現し交流する場面を意図的に増やすことが求められる。

【A　数と式】

年度	逗子市
令和5年度	68.8%
令和6年度	54.5%
令和7年度	48.2%
令和8年度	65.8%

直近の４年間で比較すると、平均正答率は上昇したといえる。しかし、全国平均正答率よりは低い結果となっている。誤答の傾向としては、数量の関係を式に表したり、式の意味を読み取ったりする力、また計算の根拠を理解して処理する力に課題があることがうかがえる。
単なる計算の正確さだけでなく、数量関係を数式で捉えることや、問題場面を式と結び付けて考えることに弱さがあると考えられる。

今後の指導改善に向けて

・基礎的な計算技能の確実な定着に加え、式が表している意味を言葉で説明する活動を重視する。

・問題場面を図、表、式で表し、それぞれを関連付けながら考える学習を充実させる。

・誤答分析を通して、符号の扱い、文字式の意味、等式変形の根拠など、つまずきやすいポイントを明確にし、個に応じた補充指導を行う。

・小学校算数との接続を意識し、数量関係を多面的に捉える見方を継続的に育てる。

【B　図形】

年度	逗子市
令和5年度	38.1%
令和6年度	45.2%
令和7年度	50.5%
令和8年度	47.8%

令和５年度は低い水準であったが、その後は改善が見られる。
ただし、図形は依然として他領域に比べて十分高いとは言えず、図形の性質について、根拠をもって捉え、説明する力に継続的な課題がある。見取り図や条件から必要な情報を整理すること、図形の性質を用いて筋道立てて考えることに弱さが残っていると考えられる。

今後の指導改善に向けて

・図形の性質や関係を、作図、操作、観察を通して実感的に理解できるようにする。

・「なぜそのように言えるのか」を問う場面を増やし、根拠を明確にして説明する活動を授業に位置付ける。

・合同・相似、角度、面積、空間図形などについて、図を見て判断するだけでなく、条件を整理して論理的に考える指導を充実させる。

・ICTや具体物を活用し、図形を動かしたり変形したりしながら考察する機会を増やす。

【C　関数】

年度	逗子市
令和5年度	51.4%
令和6年度	63.9%
令和7年度	50.5%
令和8年度	56.8%

年度による変動が大きい。比例・反比例や一次関数について、表・式・グラフを相互に関連付けて考える力に、定着の不安定さが見られる。
特に、与えられた情報から関係を読み取り、変化の特徴を説明することや、グラフの意味を具体的な場面と結び付けて考えることに課題があると考えられる。

今後の指導改善に向けて

・表、式、グラフの3つの表現を相互に関連付ける学習を、単元を通して繰り返し行う。

・日常生活の事象や具体的場面をもとに、数量の変化や対応関係を捉える活動を重視する。

・グラフを読み取るだけでなく、変化の様子を説明したり、式と関連付けて根拠を述べたりする活動を充実させる。

【D　データの活用】

年度	逗子市
令和5年度	53.4%
令和6年度	57.8%
令和7年度	59.4%
令和8年度	55.8%

上昇傾向にあり、比較的安定している。今年度の平均正答率は下がったものの、全国平均を上回っている。一方で、単に資料を読み取るだけでなく、複数のデータを比較し、その特徴について根拠をもって判断したり説明したりする力については、さらに伸ばす余地がある。
統計的な見方・考え方を活用して、目的に応じて適切に判断することに課題が残ると考えられる。

今後の指導改善に向けて

・表やグラフから必要な情報を読み取るだけでなく、読み取った内容を根拠とともに説明する活動を重視する。

・複数の資料を比較し、どのような傾向があるか、どの資料が適切かを考える学習を充実させる。

・実際の生活や社会のデータを扱い、数学が意思決定に役立つことを実感できる授業づくりを進める。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学校英語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等

（○全国平均＋５％ 程度良かった点や特徴ある点等　●全国平均－５％程度課題や改善点等）

結果の概要		全体の平均 IRT スコアは 534 であり、神奈川県を 10 ポイント、全国平均を 35 ポイント上回った。標準偏差は 110.2 であり、全国（108.1）に比べ大きい。IRT バンド１及び２の生徒の割合は全国の割合よりも 9.7 ポイント下回っている。また、IRT バンド４及び５の生徒の割合は 13.9 ポイント上回っている。
学習指導要領の領域	全体	○「聞くこと」の平均正答率は69.0%であり、全国（公立）平均と比較すると6.2ポイント上回った。 ○「読むこと」の平均正答率は66.2%であり、全国（公立）平均と比較すると6.2ポイント上回った。 ○「話すこと」の平均正答率は45.4%であり、全国（公立）平均と比較すると8.7ポイント上回った。 ○「書くこと」の平均正答率は53.2%であり、全国（公立）平均と比較すると10.1ポイント上回った。
	聞くこと	○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている(+6.5ポイント)【１】 ○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる(+7.0ポイント)【３】 ○日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができる(+11.5ポイント)【４】 ○社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができる(+7.9ポイント)【５】 ●該当無し
	読むこと	○日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができる(+7.0ポイント)【７】 ○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる(+7.9ポイント)【８】 ○社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができる(+10.8ポイント)【10（１）】 ●該当無し
	話すこと	［やり取り］ ○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている（+4.8 ポイント）【15（１）】 ○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている（+11.6 ポイント）【15（２）ab 平均値】 ●該当無し ［発表］

		○日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる（+9.2 ポイント）【16～18 平均値】 ○社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができる（+5.4 ポイント）【19】 ●該当無し
	書くこと	○社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができる(+6.5ポイント)【10（２）】 ○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている(+7.1ポイント)【11①】 ○音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている(+14.6ポイント)【11②】 ○日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる(+10.8ポイント)【12～14平均値】 ●該当無し
生徒質問紙 英語に関連する質問 問 69～問 80		○将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか（＋6.1 ポイント）【73】 ○これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビや動画、ホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）（＋10.2 ポイント）【75】 ○家庭学習の課題（宿題）として、どの程度、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか（＋5.9 ポイント）【76】 ○１、２年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか（＋9.6 ポイント）【80】 ●英語の授業の内容はよく分かりますか（－5.3 ポイント）【69】

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと（中学校英語）

概要

IRT バンド分布では、バンド５に位置する生徒の割合が全国の約２倍となっている。また、各領域の平均正答率は全国（国公私立）、県（公立）と同程度、又は５ポイント以上上回る結果となっており、全体として学習の成果が表れている。一方、「書くこと」には課題が見られ、無回答率も全国平均を上回っている。今後は、高い正答率がみられる領域の指導の成果を生かしつつ、文章を読む活動を充実させることで、英文の表現や文章の構成を参考に書いたり、自分が書いた文章と比較しながら推敲したりすることにつなげていきたい。

生徒質問調査では、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか」に対し、肯定的に回答した割合が全国平均を上回っている。また、「これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか」についても全国平均を大きく上回っている。これらの結果から、本市の生徒は英語を身近なものとして捉え、将来や日常生活とのつながりを意識していることがうかがえる。

一方、「英語の授業の内容がよく分かる」と回答した割合は全国平均を下回っている。今後は、バンド１・２に該当する生徒の課題を丁寧に把握し、「個に応じた指導」を一層充実させる必要がある。その上で、生徒の英語への関心や日常的に英語に触れる機会を生かしながら、一人ひとりが授業の中で「分かった」「伝わった」と実感できる指導を充実させ、英語で伝え合う力の育成につなげていくことが重要である。

【聞くこと】

目的に応じて、必要な情報を聞き取るためには、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分にとって必要な情報は何かを把握することが重要である。話されることの全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、複数の情報から、自分にとって必要な情報とそうでない情報を区別して聞き取る必要がある。そのために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にして、自分にとって必要な情報は何かをはっきりさせた上で英語の音声を聞かせることが大切である。

また、目的に応じて、必要な情報を聞き取る言語活動を行うに当たっては、聞く際のコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを示して、どのような情報が必要かを考えさせ、自分にとって必要な情報に関連する語句や表現を予測してから英語の音声を聞かせるようにすることが大切である。指導に当たっては、以下のような活動に取り組むことが考えられる。

・店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動

・天気予報、交通情報などを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動

【読むこと】

短い文章から情報を読み取るためには、文構造を適切に捉えることが大切である。英文を読む際には、主語と動詞、副詞句、前置詞句などの意味のまとまりを捉えながら読ませることが考えられる。修飾によって主語が長くなったり文の構造が複雑になったりしても、意味のまとまりを捉え、情報を読み取ることが大切である。

また、生徒が文章を読む前に、単語カードやデジタル教科書の機能を用いて学級全体で新出語句や重要語句を指導する方法も考えられるが、生徒に文章を読ませ、新出語句や分からない表現を、教科書の巻末、辞書、１人１台端末を用いて、各自で調べたり、意味を推測させたりする時間を確保することも大切である。分からない表現は生徒それぞれで異なるため、生徒の学習状況に応じて個々で調べさせたり、調べた内容をペアや学級全体で共有したりして、複数の例文から語句や表現がもつ意味を理解させることも考えられる。

指導に当たっては、以下のような活動に取り組むことが考えられる。

・文章を読み、文中の主語と動詞はどこにあたるのかを確認したり、日本語との語順の違いを確認したりする活動

・文章を読み、読んだ内容をイラストやグラフに表す活動

・既習の語彙や文法事項などを含む文章を繰り返し読む活動

【話すこと】

［やり取り］

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、ペアやグループで即興でやり取りをした後、どのような内容を話したらよいかという内容面の充実を図ることが大切である。 例えば、情報を付け加えて話したり相手の発話に関連する質問をしたりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じてやり取りしている生徒をよい例として紹介し、やり取りをする際の視点とすることなどが考えられる。

指導に当たっては、以下のような活動に取り組むことが考えられる。

・互いの新たな一面を知るために、好きなことや興味のあることについてやり取りする活動

・友達に共感してもらえるように、自分の住むまちのおすすめスポットのよさについてやり取りする活動

［発表］

まとまりのある内容を話すためには、関心のある事柄について簡単な「話すこと［発表］」を繰り返すことが重要である。「話すこと［やり取り］」の活動とともに、「自分の考えとその理由を話す」、「体験したこととその感想を話す」など、２文～３文程度で話す活動を行うことが考えられる。指導に当たっては、以下のような活動に取り組むことが考えられる。

・IEA が訪れてみたいと思ってもらえるように、自分が住んでいる地域のおすすめスポットとそこでできることなどを紹介する活動

・聞き手に自分の新たな一面を知ってもらうために、私の好きな人物とその理由について話す活動

【書くこと】

まとまりのある文章を書くためには、まとまりのある文章を読み、書かれている文章の構成を理解するなど、読む活動を充実させることが大切である。例えば、全体として一貫性のある文章を読み、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落との関係など文章の構成を理解させたりすることが考えられる。

また、ある話題について書く内容が思い浮かぶようにするための支援として、書く前に話題に関連する内容をキーワードでメモに整理させることが考えられる。整理したメモを基に、すぐにテーマについて書かせてもよいが、それでも書くことに難しさを感じる生徒もいることが予想される。そのような場合には、書く前に、テーマについてメモを基にペアでやり取りを繰り返し、友達の考えや表現を参考に自分の考えを書かせるなど、「話すこと」と「書くこと」の領域を統合した指導を行うことも考えられる。指導に当たっては、以下のような活動に取り組むことが考えられる。

・友達に自分の新たな一面を知ってもらうために、自己紹介を書く活動

・学校の英語版ウェブサイトに学校紹介文を掲載するために、学校生活の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を書く活動

・外国人観光客にも分かりやすいタウン・ガイドの作成に向けて、「学校」を表す２つのピクトグラムのうち、どちらがよいかウェブサイトに投稿するために、自分の考えとその理由を書く活動

・地域の紹介、おすすめのもの、おすすめの場所、日本の文化などについて書く活動

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果分析（中学校生徒質問調査）

逗子市教育委員会

○特徴的なことや課題と考えられること等　　●課題と考えられること

○「１、２年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」の質問に「ほぼ毎日（１日に複数の授業で活用）」と回答していた生徒の割合が 49.1％で、全国の割合より 20 ポイント近く高く、神奈川県の割合より 15 ポイント以上高い。
○「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか」の質問に「そう思う」と回答した生徒の割合が 64.9％で、全国より 12 ポイント・神奈川県より９ポイント程度高い。
○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問と各教科の正答率をクロス集計した結果、「当てはまる」と回答した生徒は「当てはまらない」と回答した生徒に比べ、国語 21.1 ポイント、数学 24 ポイント、英語 IRT スコアは 60 高い。
●「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合が 23.7％で、全国より 14 ポイント、神奈川県より 11 ポイント程度低い。
●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合が 64.2％で、全国・神奈川県の割合より低い。

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

○学校の授業では基礎基本の定着を目指し、全ての生徒が目標の B 基準をクリアできることを目指している。その視点から言えば、「分かるまで教えてくれているか」という質問の「当てはまる」との回答が低いことは非常に残念である。各校において改めてわかる授業づくりと個別のフォローを徹底するとともに、生徒と向き合える時間の捻出に工夫を求めたい。また、一人一台端末に入っている AI ドリルでは、個人のつまずきに応じた練習問題への取組みが可能であることも手立ての一つとして周知していく。
○学校は、個性の異なる一人ひとりが集まり、ともに生きる場であるからこそ、それぞれの感じ方・考え方の違いがあることを知ることができる。様々な違いを知ることは自分の考えを広げ、深めることにつながる。さらには、そのような集団の最適解をみんなで工夫しながら探る過程は、より豊かな社会の形成者としての生きる力を育む大切な学びとなる。今回、自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じられる生徒が、より学習の成果に結びついているという事実を根拠に、今後も生徒へ働きかける。
同時に、様々な違いを認め合い、話し合い、ともに支え合うような親和的な学級づくり・学校づくりをこれからも推進し、「いじめはどんな理由があっても許されない」という認識の徹底を図る。